

森林保全を支えるパートナーシップ ～フィリピン大学学生団体の支援事例～

東京大学 新領域創成科学研究科 サステナビリティ養成大学院プログラム 2025年度修了生

レイン・バニャレス

翻訳・編集：丸山鳴 (UNU-IAS プログラム・コーディネーター)、勝木さや子 (UNU-IAS プログラム・アシスタント)

フィリピン大学地質学専攻学生会 (UP GeMS: University of the Philippines Geology Major's Society) は、環境保護活動への学生の参画促進を目的とした学生団体で、地質学を専攻する学生により運営されている。地域の環境団体や学内の他の団体と連携し、河川の清掃活動や植樹活動を行っている。UP GeMSには、年間を通じて平均25名のメンバーが在籍し、毎年およそ15名の新メンバーが加入している。私は、フィリピンでこの学生会に3年間所属し、積極的に活動に参加してきた。本記事では、UP GeMSが新型コロナウイルスの感染症による影響の中で行った森林レンジャーへの支援活動を通じて築いたパートナーシップについて紹介する。

森林レンジャー「バンタイ・グバット」

フィリピンには、地域住民を中心に構成される「バンタイ・グバット (Bantay Gubat)」と呼ばれる森林レンジャーがいる。彼らは、地域の森林や流域の管理・監視活動、生物多様性の保全活動を担っている。彼らの権限と役割は地

域によって異なるが、主に、緑化活動の推進や、違法伐採、不法侵入などの違法行為を監視している。

マニラでは、車で約1時間半の距離にあるバラグバグ山の一帯に、マニラ首都圏への主要な水供給を担うイボ水源がある。ここでは、2013年より水源周辺の6,600ヘクタールを対象に保全活動が行われている。コロナ禍の前には、マニラ首都圏上下水道公社 (MWSS: Metropolitan Waterworks and Sewerage System) が雇用する236名のバンタイ・グバットが、この地域で保全活動を行っていた。

森林の管理と保全を支えるバンタイ・グバットだが、その労働環境には様々な課題が存在する。日給約900円～1,300円という低い賃金水準や、給与の遅延や未払いに加え、活動に必要な資材や装備も不足している。フィリピンは、アジアの中でも特に環境保護活動家・森林保護関係者への安全上のリスクが高い国の1つとされている*。バンタイ・グバットが違法に資源を採取する者と遭遇した際には、脅迫や人質事件に発展するケースもある。そのため、彼ら

* Human Rights Watch, Philippines Worst in Asia for Killings of Environmental Defenders, 2024. https://www.hrw.org/news/2024/09/12/philippines-worst-asia-killings-environmental-defenders?utm_source=chatgpt.com



バラグバグ山にて、森林レンジャーとともに活動するフィリピン大学地質学専攻学生会 (UP GeMS) のメンバー (写真提供：バラグバグ環境協会)

は政府に対して必要な制度的支援の提供を強く求めている。

学生の支援活動から発展した パートナーシップ

2020年からの新型コロナウイルスの感染症の拡大は、バンタイ・グバットの活動環境をより厳しいものにした。政府による厳格なロックダウン措置により、バラグバグ山の周辺で活動する200名以上のバンタイ・グバットが解雇された。こうした状況の中、UP GeMSは、彼らが必要とする物資提供に向けた資金調達と権利保護を目的に、タガログ語で「支援」を意味する「タギュヨッド」と名付けた支援活動を開始した。2020年11月から開始したこの支援活動は、48の団体や企業との連携を通じて、缶詰、消毒用アルコール、マスク、米などが入った236個のバンタイ・グバットへの生活必需品セットや流域巡回のためのボートの提供につながった。

また、この支援活動を通じて、同地域で環境保護活動を実施する非営利団体である「バラグバグ環境協会」とバンタイ・グバットとの連携が強化され、継続的な対話や協働の体制の構築にもつながった。これにより、バンタイ・グバットに関する情報発信が強化され、彼らの活動背景や課題が市民に伝わる機会が増加した。こうした現場での支援活動を通じて、彼らの状況は改善されつつあり、解雇されていたバンタイ・グバットも現場に戻りつつある。一方で、制度的な支援が整備される見通しは未だ不透明な状況が続いている。

支援活動からの学び

UP GeMSは、現在も小規模な内部資金調達活動を継続しており、バラグバグ山の植樹活動や樹木育成活動に参加するとともに、バンタイ・グバットや地域の環境保護団体との積極的な連携や情報交換を継続している。また、本活動から得たノウハウを活かし、気候変動の影響に最も脆弱で、台風による大規模洪水や高潮の被害を受けた人々を対象とした募金活動を行っている。

私は、本活動を通じて、学生の募金活動や普及啓発キャンペーンといった取組でも、他の団体と連携することで、バンタイ・グバットへの理解を社会に伝える機会を広げることができると実感した。また、この経験を通じて、地域の課題の解決には、草の根の取組、自治体や民間企業、NGO、政府機関といった多様な主体の連携が重要であることを認



寄贈されたボートを使って流域を巡回するバンタイ・グバット

識した。特に、学術界からの実効性のある研究成果、民間からの有益な投資、そして、政府からの適切な政策立案を引き出すためには、草の根の主体との知見の共有が重要であることを学んだ。今後は、気候変動の深刻な影響にさらされている最もリスクの高い人々に対する負の影響を軽減するための取組が確実に進むよう貢献していきたいと考えている。

Global Youth MIDORI platform ポスター展示

～つながる世界のユースの環境アクション～

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) と公益財団法人イオン環境財団が実施する地球環境問題の解決に向けたユースの人材育成プログラム「Global Youth MIDORI platform」に参加した学生の活動についてポスター展示を実施しています。本記事で紹介したタギュヨッドプロジェクトの他、国内外のさまざまな環境課題の解決に向けて取り組むユースの活動を紹介します。ぜひお立ち寄りください。

日時：2026年3月4日(水)～4月28日(火)
時間：火～土、10:00～18:00(土曜日は17:00まで)
場所：地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)
住所：〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70
国連大学ビル1F

レイン・バニャレス

東京大学 新領域創成科学研究科 サステナビリティ養成大学院プログラム 2025年度修了生
2018年～2023年までフィリピン大学にて地質学を専攻。2020年にフィリピン大学地質学専攻学生会(UP GeMS)に加入し、環境委員会で活動。環境の持続可能性に強い関心を持ち、文部科学省奨学生として東京大学サステナビリティ・サイエンス修士課程に進学。2025年9月に卒業。2024年には、国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)と公益財団法人イオン環境財団が実施する人材育成プログラム「Global Youth MIDORI platform」に参加し、スピーチコンテストで第3位を獲得。